

—平成30年 弥生（3月）のことば—



『鶯の^{がいす} 声^{こゑ}なかりせば 雪^{ゆき}消^きえぬ 山^{やま}里^{どと}いかで 春^{はる}を^し知らまじ』

今年も春のお彼岸が巡ってきます。いつも思うのですが、暑さ寒さも、昼夜の長短もいずれにも偏らぬ中道の^{かたよ}中道^{ちゅうどう}のころ、これがお彼岸なのでしょう。春秋のお彼岸は常日頃の忙しさに忘れがちな仏道を学ぶための大切な一週間です。“衆生^{しゅじょう}本来ほとけなり”で私たちはもともと仏さまのような無垢^{むく}な心をもって誕生したにもかかわらず、悲しい事に貪^{どん}・瞋^{じん}・癡^ち（むさぼり・いかり・おろかさ）の三毒^{さんどく}により迷いの民として彷徨^{さまよ}わなければならないのが現実です。

今月は『拾遺和歌集』の中で藤原朝忠^{あさただ}が詠んだ歌を挙げてみました。雪深い冬を暮らす山居^{さんきよ}の身であれば、春のおとずれは鶯の声を聞いて初めて知ることができる。鶯の声^{うぐいす}がなければどうして春を知ることができようかと詠われたものです。三毒^{さんどく}煩惱^{ぼんのう}の雪^{ゆき}に覆^{おお}われて進むべき道も見失った私たちに、仏の声が救い導いて下さる。そんな彼岸への誘^{いざな}いを詠ったものでもありましょう。♪法～法華経（ホウ～ホケキョウ）♪と。

先月27日未明、方広寺派管長大井際断^{せんげ}老師が遷化（死去）されました。壽齡103歳のお誕生日の翌朝に…。平成二年に京都妙心寺から奥山に上がられた頃、「奥山はいいところよ。目に青葉、満天の星、鶯の声…、どれもこれもケッコウよ…」と口癖^{くちぐせ}のように仰^{おっしや}っていました。奥山では鶯が告げる春を静かに迎えます。

◆今月の坐禅会：3日（土）夜7：00～8：00・4日（日）朝7：00～8：00◆